



じしゅう とうこうさん
時宗 東岡山

福田寺だより

【ホームページもご覧ください!】

<https://kyoto-fukudenji.com/>



～今月のおことば～

仏も衆生も隔なく 彼此の三業捨離せねば 無礙光仏と申なり
一遍上人



3密と三業

念仏を唱えるとき、仏様と人との隔たりは無くなり、
両者の行為は和合する。阿弥陀仏の別名を無礙光仏（隔た
りがない仏）というのはこの由縁である。

緊急事態宣言から1か月が経とうとしておりますが、まだまだ先行きが見えない状況です。「ステイホーム」（お家で過ごそう）を合言葉に全国的に3密（密閉空間、密集場所、密接場面）の回避、外出自粛が求められています。皆様不安な日々を過ごされているかと思いますが、このような時こそ仏道に基づいて、正しく冷静な行動を心掛けたいものです。

さて、最近よく耳にするこの「三密」という言葉は、真言密教では「身密・口密・意密」の三密を指します。また、仏教には似た言葉に「三業」があります。私たち時宗ではこちらの三業という言葉をよく使います。「業」は「行為」という意味があり、私たちの行為は大きく3つに分けることができます。身体を使った行動の「身業」、口から出る言葉による「口業」、心の活動である「意業」、この身口意による行為が「三業」と呼ばれます。

唐の善導大師は『観無量寿経疏』の中で「衆生、行を起して口常に仏を称すれば、仏すなわちこれを聞きたまう。身常に仏を礼敬すれば、仏すなわちこれを見たまう。心常に仏を念ずれば、仏すなわちこれを知りたまう。衆生、仏を憶念すれば、仏また衆生を憶念したまう。彼此の三業相い捨離せず」と説かれています。身口意の順番は違いますが、口には念仏、身は礼拝や合掌、心には阿弥陀様を念じるという私たち念仏者の在り方、そして同時に仏様も私たちの身口意の三業に応じてくださるということが示されています。私たちが阿弥陀様を常に想い続ければ、阿弥陀様も私たちを想い続けてくださいます。ご先祖様もきっとそうでしょう。私たちが忘れずに想えば、ご先祖様も忘れずに想ってくださるはずです。

ところで、「自業自得」とあるように自らの業（行為）は自らへと返ってくるのが鉄則です。しかし、お釈迦様がいらっしやった時代、このような考え方とは異なる思想もありました。例えば、現世の運命は過去世の行いによって決まる、または神によって決められているという運命論・宿命論的な考え方。悪行や善行をしても意味はなくその報いを受けることはないとする道徳否定論。お釈迦様はこういった考え方を否定し、あくまで「因果応報」、行為とその結果を重視されました。

現在、新型コロナウイルスにより世の中はパニック状態です。こういう時こそ人間の弱い部分は現れやすく、差別的な言動が横行してしまいます。自らの言動に責任を持ち、その行為が自らに返ってくるものと自覚することが肝要であると言えます。 合掌



ミヤコフスレ



オタマキ